

平成25年5月10日

各国公私立大学FD担当者 殿

独立行政法人大学評価・学位授与機構長

野上 智行（公印省略）

平成25年度大学評価フォーラムの開催について（ご案内）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

当機構の評価事業に関しましては、平素よりご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび当機構では、平成25年度大学評価フォーラム「学生からのまなざし—高等教育質保証と学生の役割」を別紙のとおり開催することといたしました。

つきましては、ご多忙中誠に恐縮ではございますが、本フォーラムにご参加くださいますとともに、関係者の方々にご周知いただきますようお願い申し上げます。

なお、参加を希望される場合は、大学評価・学位授与機構 HP (<http://www.niad.ac.jp/>) から参加登録をお願いいたします。フォーラム後、学術総合センター3階にて情報交換会（会費2,000円）を開催しますので、参加を希望される場合は、フォーラムと併せて登録願います（フォーラム、情報交換会共に登録締切は7月5（金）です）。

また、プログラムは変更される場合がありますので、予めご了承ください。

【担当】

独立行政法人大学評価・学位授与機構
評価事業部国際課国際第2係

T E L : 042-307-1616

F A X : 042-307-1559

E-mail : kokusai@niad.ac.jp

学生からのまなざし

高等教育質保証と学生の役割

参加申込み

5月中旬頃募集開始予定
(当機構ウェブサイトより受付)
「大学評価フォーラム」参加費無料/
「情報交換会」会費制(2,000円)
<http://www.niad.ac.jp/>

平成25年7月22日(月)
13:00 ~ 17:40(受付12:00開始)
(※18:00 ~ 19:00 情報交換会)

一橋講堂

(学術総合センター 2F)

東京都千代田区一ツ橋2-1-2

参加対象者

教育・評価担当理事等、評価実務担当者、
学生、その他高等教育関係者
担当課
評価事業部国際課(TEL:042-307-1616)

STUDENT'S ROLE IN HIGHER EDUCATION QUALITY ASSURANCE

高等教育という学びの場の主人公は、学習の主体である学生です。したがって、学生は、教職員と協力して各機関における高等教育の質を向上させる責任を担っています。

これまで日本においては、高等教育の質保証における学生の役割の認識、学生の参画はかならずしも十分ではありませんでした。これに対して、欧州諸国では、とりわけENQA(欧州高等教育質保証協会)による「欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン(ESG)」が質保証への学生の参画を明確に求めていることもあり、

その制度設計、事業実施において学生は責任の一端を担い、重要な役割を果たしています。

今回の大学評価フォーラムでは、学生参画による質保証に関して、欧州における歴史的背景、基本的考え方、その実施の実態を具体的に理解したいと考えます。欧州諸国において質保証事業に参加した学生の経験を共有しながら、わが国における学生参画による教育改善の試みの事例報告も交えつつ、高等教育質保証の将来のあり方について議論を深めます。

海外からの招聘者

Helka Kekäläinen
Vice-President of the ENQA
Secretary General of the Finnish Higher
Education Evaluation Council (FINHEEC)

Dan Derricott
Student Engagement Officer at University
of Lincoln

Nik Heerens
PhD Researcher at University of Exeter

主催  独立行政法人 大学評価・学位授与機構

後援 公益財団法人大学基準協会
公益財団法人日本高等教育評価機構
一般財団法人短期大学基準協会

program

プログラムは変更される場合がありますので、予めご了承ください。

13:00 - 13:10

開会挨拶 野上 智行 大学評価・学位授与機構長(於：一橋講堂／日英同時通訳)

13:10 - 13:20

趣旨説明 川口 昭彦 大学評価・学位授与機構特任教授(於：一橋講堂／日英同時通訳)

13:20 - 14:05

基調講演I「質保証への学生参画の理念と実践—ENQAの観点から—」(仮題)(於：一橋講堂／日英同時通訳)
Helka Kekäläinen Vice-President of the ENQA
Secretary General of the Finnish Higher Education Evaluation Council (FINHEEC)

14:05 - 14:50

基調講演II「QAAの事例—学生理事の立場から—」(仮題)(於：一橋講堂／日英同時通訳)
Dan Derricott Student Engagement Officer at University of Lincoln

15:05 - 16:15

グループセッション (テーマを選び、積極的に議論していただく場です。)

セッション1 (於：中会議室1／日本語)
「学生参画型FDと質保証」

大学における教育の内容・方法の改善を目的とするファカルティ・ディベロップメント(FD)は高等教育の質の維持・向上のためにも重要な活動である。日本においては、このFDの成果を上げる取組として学生の参加を求める事例が近年、注目されている。

現在行われている学生参画型FDの事例を検討しつつ、この活動を高等教育の質の向上へとつなげる方向性を議論する。

話題提供：天野 憲樹 岡山大学准教授
曾根 健吾 関東圏FD学生連絡会前学生代表
東洋大学大学院生

セッション2 (於：中会議室2／日英逐次通訳)
「これからの授業アンケートと生活実態調査」

大学では、学生の授業の理解度や大学生生活全般の満足度を把握するためのさまざまな調査が行われている。今後、学習と生活の質向上には、調査を受けた学生からのフィードバックによる調査方法の改善や調査結果の有効的な活用が重要である。

欧州における経験をふまえて、学生の経験をよりの確に把握し、質向上へ有効に活用するために必要な次のステップについて、議論する。

話題提供：田中 岳 九州大学准教授
岡崎 成光 早稲田大学教務部調査役
Helka Kekäläinen

セッション3 (於：中会議室3／英語)
「学生が評価委員?!」

日本の大学では、授業アンケートや学生参画型FDなど、学生がさまざまな形で教育の質保証に貢献している。しかしながら、第三者評価の評価委員会に学生が参加することについては想像がつきにくい。

欧州においては、すでに学生が第三者評価チームに学生委員として参加している。その経験を中心に、学生が直接評価自体に関与することによって、何が起きているのか、何がはじめて可能となっているのかを明らかにする。

話題提供：Dan Derricott
鈴木 典比古 大学基準協会専務理事

セッション4 (於：一橋講堂／日英同時通訳)
「質保証への学生参画と学内マネジメント」

大学の質向上には、内部質保証をはじめとした学内マネジメントにおける学生の役割を明確にしておくことが効果的である。

欧州における質保証と学内マネジメントへの学生参画の経験をもとに描かれたその全体像を出発点として、学生参画がもたらし得る新たな効果を探る。

話題提供：Nik Heereus
PhD Researcher at University of Exeter
北原 和夫 東京理科大学教授

16:35 - 17:35

各グループセッション報告・質疑応答・まとめ(於：一橋講堂／日英同時通訳)

17:35 - 17:40

閉会挨拶 岡本 和夫 大学評価・学位授与機構理事
(於：一橋講堂／日英同時通訳)

access

一橋講堂(学術総合センター2階)

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号

●東京メトロ東西線「竹橋」1b出口 徒歩4分

●東京メトロ半蔵門線／都営地下鉄三田線・新宿線「神保町」A8出口 徒歩3分

※情報交換会会場は学術総合センター3階

